

# 1. 調査報告概要表

作成日 平成21年 1月7日

## 【評価実施概要】

事業所番号	1072600446
法人名	有限会社 たじま
事業所名	グループホーム かやの木
所在地	群馬県吾妻郡中之条町 1775-1 (電話) 0279-75-5340

評価機関名	はあとらんど
所在地	群馬県前橋市大友町 2-29-5 コミュン 100 1-B
訪問調査日	平成20年12月17日

## 【情報提供票より】(20年12月 4日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 14 年 11 月 1 日
ユニット数	2 ユニット 利用定員数計 18 人
職員数	17 人 常勤 6 人, 非常勤 11 人, 常勤換算 4.2

### (2) 建物概要

建物構造	木造 造り
	2 階建ての 1 階 ~ 2 階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000~33,000 円	その他の経費(月額)	12,000 円
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( ) 円 (無)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 12,000 円		

### (4) 利用者の概要(12月4日現在)

	18 名	男性 3 名	15 名
要介護1	1 名	要介護2	4 名
要介護3	10 名	要介護4	2 名
要介護5	1 名	要支援2	0 名
年齢 平均	87.5 歳	最低	78 歳 最高 98 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人 寿山会 田島病院
---------	---------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

同法人の病院が隣接しているため、病状が変化したときにはすぐに対応してもらえるという安心感を、本人・家族が持てるホームである。ゆったりのおんびりと過ごしてもらいたいという理念に沿った支援をしていこうと前向きに取り組む姿勢が職員間で統一されている。今年、同居猫となった「チビ」の存在が利用者の癒し効果ばかりでなく、豊かな表情や体を動かそうというリハビリ効果も高めている。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回評価は職員に知らせ、法人代表者にもアドバイスを受け改善に向けて検討した。運営推進会議には地区の役員にも参加してもらえるようになり、ホーム便りも再発行できた。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>管理者が各職員の考えを拾い上げ、自己評価としてまとめあげた。今後は、自己評価が業務の見直しのきっかけになるよう、記録に残す取り組みにしたいと考えている。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>今年度は4ヵ月に1度の開催であったが、今後は2ヵ月ごとの開催にしたいと思っている。今年度は地区の役員として民生委員や老人会からの参加も実現できた。ホームの理解を深めてもらえるよう情報交換の他に、行事に合わせた開催も検討している。ホームにとって前向きな意見が出し合えるような雰囲気作りを目指している。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族への報告は面会時などに積極的に行っているが、今年度はホーム便りを復活させ、日常の表情を伝えることができた。また運営推進会議にも参加してもらっているため、親しみのこもった家族の反応が感じられるようになった。出された意見は法人代表者にも相談しながら検討している。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地域で開かれる行事や町の広報に載っている催し物などには、出来るだけ参加している。隣近所とは、日ごろの挨拶はもちろん、花や野菜などを気軽にいただける付き合いが出来ている。</p>

## 2. 調査報告書

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域の行事や隣近所との付き合いも積極的に行いながら、グループホーム開所時に掲げた理念を、現在も一貫して掲げている。	○	普段の生活で地域や近所との付き合いも当然のように行われており、グループホームが目指す地域密着の考え方も実践されている。現在の理念に実情を上乗せする方向で、理念の見直しを検討してみてはどうか。
	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	創立者の掲げた理念が、日々の実践に活かされるよう、ミーティングや会議の中で共有する事を心がけている。		
2. 地域との支えあい					
	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	隣近所とは、普段から挨拶を交わし野菜や花をいただくなど、気軽なお付き合いが出来ている。広報に載っている地域の行事や地元で行われるどんど焼き等にも積極的に参加し、交流の機会を大切にしている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回評価の結果は職員に知らせ、改善に向けて検討を行った。運営推進会議には地区の役員も参加するようになり、ホーム便りも再発行となった。今回の自己評価は管理者が職員の意見を拾い上げ作成した。今後は職員の意見を記録に残し、業務見直しのきっかけにしたいと考えている。		
	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年は3月5月10月に開催した。行政職員の他に民生委員や老人会代表、家族や利用者も参加し、意見交換を行った。今後はホームの行事等も利用して開催し、理解を深めてもらいながら前向きな意見交換ができる雰囲気を作っていきたいと考えている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村との事務的なやり取りは法人の担当者が行っている。介護保険の代理申請などはケアマネジャーが行っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ホーム便りには写真も掲載し、普段の表情を家族に伝えるようにしている。今後は個別のコメントを書き添えていきたい希望を持っている。面会時にはそのつど様子を報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議などで家族から出された意見はホームの運営に生かせるよう検討している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動は法人の方針で行われている。法人内で研修を兼ねた各職場の業務経験をするため、利用者とは顔見知りになっていることが多く、法人内での異動による混乱は比較的少ない。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修も兼ね各職場の業務を経験したり、法人全体での研修を3～4ヵ月に1度行っている。外部研修にも参加している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着型サービス連絡協議会に加入しており、グループホーム大会や連協主宰の研修会、NST学会の研修会等の参加をを通じて交流を重ねている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<input type="checkbox"/> 馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者のほとんどが法人内の病院やデイサービスの利用者であり、日頃から交流しているため利用開始前から馴染んでいることが多い。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<input type="checkbox"/> 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者の話に耳を傾け、戦争中の生活の様子や昔の生活の知恵を教えてもらっている。		
<b>III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<input type="checkbox"/> 思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の話に耳を傾けるようにしている。特に入浴中や畑仕事の際などリラックスした状態のときに希望を把握するようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<input type="checkbox"/> チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	朝夕の申し送りやミーティングで情報を出し合い家族・本人の希望を確認しながら、ケアマネジャーが中心になって介護計画を作成している。		
16	37	<input type="checkbox"/> 現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画を日誌で常時確認しながら記録するよう工夫しており、モニタリングを毎月行いながら、状態の変化に応じて介護計画を見直ししている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	法人関係者の協力も得ながら、デイサービス利用者や高齢者住宅の入居者と交流したり、個別に墓参りや歯科受診・買い物の支援に応じている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の希望するかかりつけ医になっている。定期往診の他、必要に応じてかかりつけ医に受診するよう支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	法人の病院が隣接しているためすぐに対応してくれるという安心感が前提となっている。そのため入所時には家族の意向は確認しているが、文章化はしていない。	○	多くの利用者・家族が隣接の病院にかかれる安心感を持っていると思われるが、ホームとしての基本的な方針を文書化して、入所時に家族等に説明、確認することを検討して欲しい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1) 一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人ひとりのプライバシーを大切に、記録等の保管もしっかりされている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人のペースで生活が出来るよう、利用者の体調やその日その日の気分を尊重しながら支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の好みのメニューも取り入れながら、職員も一緒に会話をしながら食事を楽しんでいる。片付けなどは一緒にやっている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴を拒否しがちな場合でも、声掛けの方法やタイミングを工夫しながら週2回の入浴を支援している。希望者には日勤帯であれば毎日でも応じている。また、状況に応じてシャワー浴や足浴も行っている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	毎日のゴミ捨て、雑巾縫いやボタンつけ等の裁縫、洗濯物たたみ、掃除、畑の作業等、それぞれの力を活かして楽しみや役割を見つけて日々を過ごせるよう支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	毎日散歩に出かけたり、時にはデイサービスや高齢者住宅を訪問したりして、ホームから出かける機会を作っている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関と居室には鍵を掛けていない。玄関はチャイムを設置し、その都度対応している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	病院との合同訓練を行っている。地域や消防署への協力も依頼し、今年度中には総合訓練を予定している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養摂取量や水分摂取量は、ホーム独自の一定基準を設けチェックしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	きれいに整理されている共同空間には、季節の飾り付けがされており、ゆったりと生活できる環境になっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	個人によって箆笥等の家具、鏡、椅子を持ち込み、過ごしやすい環境作りが出来ている。		